

## 公民館活動から〈フィールドミュージアム〉を育てよう！

### 各種活動のネットワーク化に向け、三つの〈こう房〉展開

#### ① 耕房

環境教育の拠点。土づくりから栽培、利用まで。衣食住、暮らしの中のみどりを考え、体験活動フィールド：遊休農地の活用。「コミュニティーファーム」制度創設  
活動例：土壌入門（農。土木。建築。地学。工芸）。三世代活動（栽培、衣食住生活利用）

#### ② 工房

ものづくり教育の拠点。自己研鑽から社会教育サポーターへ。ものづくりの喜びの共有  
活動フィールド：公民館の工房（調理設備、工作設備）  
活動例：小学生むけ地域活動（粘土遊び。かまど調理。玩具づくり。焼き物や左官体験等）

#### ③ 交房

郷土教育の拠点。わたしたちの住む町を知り、力をよりあわせ、ふるさとづくり  
活動フィールド：空家の活用。「コミュニティーカフェ」制度創設。憩い、交流の場の開放  
活動例：老若男女「わたしの研究発表会」。来る者拒まず「みんなの自由討論会」

### 具体化に向けた主な取組み

#### ① チャレンジ公民館の設定。設備・フィールドの確保、整備

公民館の複合施設化を目指す。文科省の進めるコミュニティ・スクールとの連携

#### ② 各公民館活動グループ・リーダー、連携団体への働きかけ

既存の連絡協議会を母体とした複合施設化準備会の設立。キーとなるグループ・個人の発掘

#### ③ 各公民館地域活動フィールド資源の調査

準備会で現地調査。市役所関係部署の協力で権利関係等基本情報の整理。関係者との折衝

### 新たな「公と私」の関係 キーワード MEMO

みんなが公務員 ⇒ 次ページ 新たな「公と私」モデル 吉田案参照

公務員は全体の奉仕者。

今まで日本の公は、国・自治体で、公と私是对立関係ないしは公の上位意識が強いといわれてきた。

これからは地球環境問題等から世界観が変わり、地球環境そのものの秩序が「新たな公」。

今までの公も私も、ともに「新たな公」認識のもと、活動し奉仕する公務員ともいえるのでは？

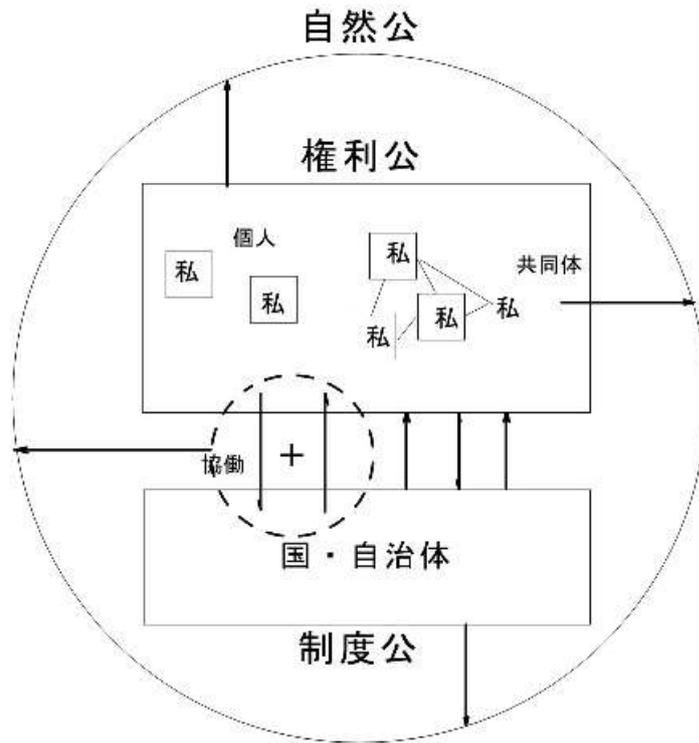
天地返し ⇒ 耕作の「転地返し」をもじった造語

耕作放棄地、空家、不法投棄等でまちの環境、保安、景観に悪影響がでている。

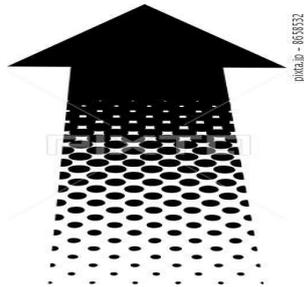
「公」、行政が改善、立ち入ろうとしても、「私」の権利制限で遅々として進まない。

所有権が使用権より優先されている現状は、良好なまちづくりを進める上で、見直さるべき点多いと思う。特に経済的に問題があるわけではないのに、評価価格の上昇や税金対策のため放置、管理放棄している場合も見受けられる。このような場合、評価額への減額査定や税額の加算、罰則などないものか？

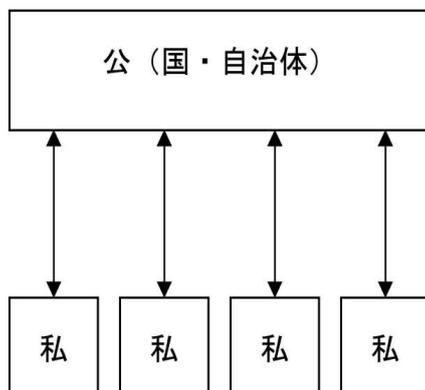
「土地は天のもの」的な発想で、放棄せざるをえない土地を公的な機関に預け、譲渡し（公に渡し返す）、公共的利用をすすめる、住みよい町づくりの種地になったらと思う。



新たな「公と私」モデル 2021・吉田



日本



欧米

